

突然冬がやってきて、紅葉もビックリするよ
うな天候となりましたね。当院の外来にも、急
激な気温の低下に慌ててインフルエンザワク
チンの接種にみえる方が増えました。

新宿の地元に戻って早いもので十年以上が
過ぎました。街医者が診察する病気は、大学病
院時代と異なり季節性があります。

これからはいわゆる風邪の患者さんが増え
ます。実は風邪の治療はなかなか難しいのです。

皆さん、特に働き盛りの方は風邪でもなかな
か休養できない環境にあります。薬は指示通り
内服出来ないことが多く治療に難渋し、患者さ
んも辛い思いをします。

気管支炎から肺炎を起こし来院される方や
脱水で点滴を必要とする方も月に数人来院さ
れる時期です。やはり風邪は「万病のもと」で
す。十分に注意しましょう。



ところで、先日患者さんのご家族から西新宿
近隣の高齢者に関する資料をいただきました。

それによると、この地域の高齢化率（65歳
以上の総人口に占める割合）は15%と新宿全
体の19%より低いのですが、高齢者の方の4
0%が一人暮らしとの報告でした。更に驚いた
事に角筈管内の全年齢の一人暮らし率は5
0%でした。

この数字はこの地域には家族単位で生活を
している方が少ない事を表していると思いま
す。当院に来院される患者さんの中でも地元
の高齢者の方が減りました。

核家族化に伴って高齢者の施設に入所され
たり、子供の元に引っ越されたり行方が明ら
かな方は私たちも安心です。一方で、長年通院
されていた患者さんが突然音信不通になる事
も時々あります。多くの場合には患者さんの
関係者と私たちが疎遠である事が原因です。
最近では、遠方に家族がいらっしゃり第三
者に引っ越しや施設入所を依頼されている
場合が多いようです。

いずれにしても地域の人間同士の交流が
少なくなり寂しく感じています。我々街医
者から何か地域の交流を活発にする行動が
起こせないか模索中です。

いつもこのニュースで書いていますように
新宿は医者が勉強するうえでとてもありが
たい場所です。高名な学者先生や新進気鋭
の医師の講演を聞けるからです。自分の医
療のセルフチェックするためにも興味ある
講演会には積極的に参加しています。その
場で素晴らしい医師と知り合うと自分自
身が元気になります。今年も信頼できる
医者仲間に出会ったことを感謝していま
す。

今年はまさに異常気象に終始した一年で
した。12月号はお休みさせていただきます。
年末に向けて皆様お元気で活躍ください。



院長

伊藤外科内科医院 HP

<http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp>

(バックナンバーは HP にて公開中です)



三弓先生の本棚 37

かぐや姫の罪

映画『もののけ姫』や『千と千尋の神隠し』などで有名なスタジオ・ジブリの最新作『かぐや姫の物語』を観てきた。こちらは、ジブリの顔ともいえる宮崎駿監督の作品ではなく、二代巨頭のもうひとり、高畑勲監督作品だ。宮崎監督のようにメディアに多く登場しない監督で、私も今回、初めて作品を観た。筋立ては彼の有名な『竹取物語』そのままである。が、そこに高畑監督独自のゆたかな解釈が加わっている。

子どもの頃『竹取物語』を読んで、気づかずに通り過ぎてしまった方も多いかもしれないが、実は月の世界の住人であるかぐや姫が竹から生まれてくるのは、「罪を犯してこの地に降ろされた」からなのである。そのことは『竹取物語』に描かれているが、「いったいどんな罪を犯したの？」ってことは、書かれていない。高畑監督は「その罪」を文学的・哲学的に解釈することによって、実に生き生きとかぐや姫やまわりの人々を描いた。とても温かく、力強く、そして深い作品だ。実は試写会で観たのだが、もう一度、劇場に観に行きたいと思っている。

ところで、今回ご紹介する本は、まさに「かぐや姫の犯した罪」を題材にした文庫『かぐや姫の罪』（新人物文庫）である。著者は神道学者の三橋健氏。神道学、つまり日本の神々や神社の視点からこのテーマを解釈している。ご存じでした？ 富士山の神様はかぐや姫だったって。今年、世界文化遺産に指定された富士山は、「山」としてだけでなく、富士浅間信仰を含めて遺産となったわけだが、この富士浅間信仰とかぐや姫は深い関わりがあるのだ。

富士山と大きく関係している神社といえば、静岡や山梨などにある浅間神社である。浅間神社の由来を記した古い書物はいくつかあるのだが、そのひとつに、のちに富士浅間大菩薩として祀られることになる「赫野姫（かぐやひめ）」が登場する。そこに描かれていることこそが「かぐや姫の前世譚」、つまり月の世界で犯した罪を記している――。

こうした古い書物は「縁起」や「本地物」と呼ばれるのだが、その多くは中世に記されたものである。『竹取物語』の成立は平安時代前半と推測されているので、かぐや姫が前世（月の世界）で犯した罪のほうが、ずいぶん後に記されたことになる。60年以上に渡って神道学を研究してきた三橋氏は、このことについて、興味深い考えを述べている。古代と近世に挟まれた「中世」という時代は、地殻変動を起してマグマが吹き出るように、古代よりさらに古いものが噴出した時代だというのである。確かに、中世に入るまでは、「文字文化」は限られたごく一部の知識階級のものだった。文字を持たない人たちは、なにも残さなかったかというところではなく、「口承」という方法で物語を伝えてきたのだ。すでに文字を持っている現代人には想像もつかないほど、長い時代を経て、物語は人の声で語り伝えられてきた。そうしたものの多くが中世になって、文字化されたのだ。文字を持っている私たちは、書けば忘れる。忘れても、書いたものを見ればいいから。書き記す術のなかった時代、何十代にも渡って口承され続けた物語のなかにある「ゆたかさ」や「切実さ」は、現代人が失ったもののひとつでもある。